



平成 20 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況

平成 20 年 1 月 18 日

上場会社名 小林製薬株式会社

上場取引所 東・大1部

コード番号 4967

URL <http://www.kobayashi.co.jp>

代表者 代表取締役社長 小林 豊

問合せ先責任者 取締役 グループ統括本社本部長 山根 聡

TEL (06)6222-0084

1. 平成 20 年 3 月期第 3 四半期の連結業績 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日)

(1) 連結経営成績

(注) %表示は対前年同四半期増減率

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20 年 3 月期第 3 四半期	202,197	△0.1	15,886	△0.9	13,815	△1.9	7,901	△6.7
19 年 3 月期第 3 四半期	202,442	5.3	16,031	12.5	14,076	6.4	8,470	22.1
19 年 3 月期	257,022	—	18,029	—	15,012	—	8,297	—

	1 株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後 1 株当たり 四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
20 年 3 月期第 3 四半期	191 06	190 87
19 年 3 月期第 3 四半期	204 98	204 67
19 年 3 月期	200 77	200 47

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20 年 3 月期第 3 四半期	172,400	81,083	45.3	1,887 20
19 年 3 月期第 3 四半期	171,050	77,592	43.6	1,803 96
19 年 3 月期	164,555	77,236	45.2	1,799 87

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20 年 3 月期第 3 四半期	4,098	△3,848	△5,571	13,750
19 年 3 月期第 3 四半期	6,768	△9,821	△4,398	16,989
19 年 3 月期	8,833	△11,803	△2,433	19,090

2. 配当の状況

(基準日)	1 株当たり配当金		
	中間期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭
19 年 3 月期	—	50 00	—
20 年 3 月期	27 00	—	54 00
20 年 3 月期 (予想)	—	27 00	

3. 平成 20 年 3 月期の連結業績予想 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日) 【参考】
 (%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通 期	229,000	△10.9	18,500	2.6	16,000	6.6	8,750	5.5	211	51

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
- (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

[詳細は、4 ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。]

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績の予想は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な不確定要素により実際の数値と異なる場合があります。

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期のわが国経済は、企業収益の改善や底堅い個人消費に牽引され、概ね回復基調で推移しておりますが、米国サブプライムローン問題及び原油価格高騰の長期化など、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

そうした状況の中で、当社グループは経営理念である「創造と革新」の精神をフルに発揮し、新市場を創造する製品やサービスの提供により顧客の潜在ニーズを開拓し、また既存の参入市場に対しても新たな付加価値を付けた製品やサービスの提供により市場の活性化に努めてまいりました。

その結果、当第3四半期の売上高は202,197百万円（前年同期比0.1%減）、営業利益15,886百万円（同0.9%減）、経常利益13,815百万円（同1.9%減）となりました。また、当第3四半期純利益は7,901百万円（同6.7%減）となりました。

主な事業の種類別セグメントの業績の概要は次のとおりであります。

家庭用品製造販売事業

当事業におきましては、今期、おりものシート「サラサーティさりえ」、耳なり改善薬「ナリピタン」、芳香消臭剤「トイレの消臭シャボン」などを発売し売上拡大に貢献しました。また、おなかの脂肪の分解・燃焼を促す内服薬「ナイシトール85」やトイレタンククリーナー「ブルーレット」も引き続き順調に推移した結果、売上高は87,637百万円と前年同期に比べ5,655百万円（6.9%）の増収となりました。利益においては、医薬品など利益率の高いカテゴリーの売上伸長や製造原価、販売管理費のコスト削減を実施した結果、営業利益は16,102百万円と前年同期に比べ1,095百万円（7.3%）の増益となりました。

家庭用品卸事業

当事業におきましては、注力カテゴリーであるコンタクトケア関連商材は市場環境が厳しく苦戦しましたが、生活改善薬などの漢方・生薬商材や夏冬物の季節商材、食品が好調に推移したことなどから、売上高は131,975百万円と前年同期に比べ4,069百万円（3.2%）の増収となりました。利益においては、主要顧客であるドラッグストアの出店競争が激しく、価格競争が激化したことなどから、営業利益は96百万円と前年同期に比べ68百万円（△42.9%）の減益となりました。

なお、平成20年1月の株式交換完了により家庭用品卸事業を営む㈱コバシヨウは㈱メディセオ・パルタックホールディングスの完全子会社となったため、第4四半期以降は家庭用品卸事業が連結対象から外れます。

医療関連事業

当事業におきましては、小林メディカルカンパニーで注力している手術室関連や市場の拡大が見込まれる整形外科領域において売上は順調に推移しました。また平成18年11月に株式取得しました人工呼吸器メーカーのイーベント社が連結対象となりましたが、在宅医療ビジネスのシールドヘルスケアセンター3社の全株式を譲渡したことから、売上高は7,836百万円と前年同期に比べ5,887百万円（△42.9%）の減収となりました。利益においてはイーベント社の事業成長のため積極的に投資していることなどから、営業損失は317百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期の財務状態は以下のとおりです。

総資産は前連結会計年度末と比較して7,845百万円増加しましたが、自己資本が3,641百万円増加したことから、自己資本比率は45.3%と0.1ポイント増加しました。

(連結キャッシュ・フロー)営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、獲得した資金は4,098百万円となりました。

これは、税金等調整前第3四半期純利益13,998百万円がありましたが、法人税等の支払額7,724百万円があったことなどによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、使用した資金は3,848百万円となりました。

これは、営業権譲渡による収入1,277百万円がありましたが、有形・無形固定資産の取得2,085百万円や投資有価証券の取得2,524百万円があったことなどによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、使用した資金は5,571百万円となりました。

これは、当期より中間配当を開始するなど配当金の支払い3,184百万円があったことなどによるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第 3 四半期につきましては、ほぼ計画に沿った業績で推移しているため、平成 20 年 3 月期中間決算短信（平成 19 年 11 月 14 日開示）における通期の業績予想から修正はございません。

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）
該当事項はございません。
- (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用
当第 3 四半期における棚卸資産の棚卸高は、実地棚卸を行わず、当中間連結会計年度末に関わる実地棚卸高を基礎として、帳簿棚卸によって算定しております。
- (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更
該当事項はございません。